

第24回「みどりの文化賞」受賞理由等

受賞者 中越 武義 氏

もり
「森林の力を地域の力に」の実現を目指して

1. 中越武義氏は、清流四万十川の源流域に位置する高知県檜原町に昭和37年に奉職後、助役を経て平成9～21年まで3期12年にわたり檜原町長を務め、町面積の91%を占める森林の資源を総合的に活かした先導的で多岐にわたる取組みを展開され、森林林業行政や地域振興に大きく貢献された。
2. 町長在任中、地域づくりの基本を環境・健康・教育とされ、特に森林を活用した子供たちの健全な育成に着目し、平成9年に森林セラピー基地の指定を受けた。平成11年には風力発電を設置し、これにより得られた売電収益を環境基金として積み立てて、森林整備等に還元させる取組みを行ってきた。
また、平成12年には、森林政策の基本理念等を明確に打ち出す檜原町森林づくり基本条例を制定した。同年、檜原森林組合が我が国で2例目（団体認証では初）のFSC認証を得るとともに、檜原町独自の支援として認証対象森林に対して環境基金を活用して整備費の助成を行い、認証森林の拡大に努めた。
3. さらに、公民協働（檜原町、森林組合、矢崎総業(株)）により「ゆすはらペレット(株)」を設立し、平成20年に木質ペレット工場を整備し、製造された木質ペレットは、中学校の寮や福祉施設の空調に導入しており、平成21年には環境モデル都市に選定された。
4. また、清流四万十川の保全等のために、水源林造成事業を活用した緑のダムとしての水源林の整備等の川上対策に尽力されてきたほか、庁舎、プール、橋等の公共施設への町産材の積極的な利用、個人が町産材を使って家を建てる場合への助成等の川下の出口対策まで各般の森林林業施策を展開された。
5. 以上のように、氏の取り組んできた「森林資源を総合的に活かした地域行政の展開、地域振興」の功績は優れて顕著なものであり高く評価される。

(経歴・公職等)

昭和18年生まれ。

昭和37年 3月 高知県立檮原高等学校卒業

昭和37年12月 檮原町役場へ就職

平成元年 8月 檮原町議会事務局長、建設課長を歴任し助役就任

平成9年12月 檮原町長（～21年12月）

平成18年 6月 高知県水源林協議会会長（～22年6月）

平成19年 6月 全国山村振興連盟 副会長

平成20年 7月 高知県地域総合協議会山村部会長

平成20年 5月 森林セラピー基地「全国ネットワーク会議」理事

町長在任中の檮原町の受賞

平成14年 自治体環境グランプリ（コラボレーション賞）受賞

平成15年 明日への環境賞を受賞（朝日新聞社）

〃 環境共生参加まちづくり表彰（環境省）

平成20年 檮原町総合庁舎がサステイナブル建築賞を受賞

平成21年 環境モデル都市に選定

〃 日本環境首都コンテストの先進事例特別賞を受賞

〃 新エネ百選（経済産業省）に選定